



平井義久 国際交流の記録より



## ロータリアンは絆で結ばれた世界市民

世界経済のボーダレス化、グローバル化が言われて久しい中、私たちのロータリークラブは国際化がいち早く進んでいる世界規模の国際的ボランティア組織であります。世界中の数百万人のロータリアンが繋がり、その国際的な活動は、教育的プログラムや人道的プログラム、保健事業、また国際理解に重要な文化交流プログラムなどの活動に及び、これを通して既に世界的規模で国際理解と交流・親善を展開しています。

私達ロータリアンの絆の強さは、このような世界に眼を向けた超我の奉仕に支えられていると言えます。国際奉仕は、青少年交換学生の支援や、ロータリー世界平和奨学生のスポンサーとなることなど、あるいは、ポリオプラスの根絶に貢献することや世界社会奉仕プロジェクトを実施することなど、とても多くの重要な機会を提供しています。国際プロジェクトに参加して、はじめてロータリーの意味を本当に理解することができたというメンバーの声があります。その経験によって、親睦、理解、そして奉仕に対して、さらに新たな広がりをもたらします。

今月は「世界理解月間」です。1905年2月23日、ポール・ハリスが3人の友人達と初めて会合を開いた日にちなんで、2月は「世界理解月間」と指定され、国際理解と友好・親善を強調するようなプログラムの実施を要請しています。更に、この日を「ロータリー創立記念日」とし、また「世界理解と平和の日」に指定されています。

しかしながら世界の平和の訪れはまだまだ遠いものがあります。病気の子供、おなかをすかしている子供、のどが渇いている子供、着るものがない子供、そして家もなく、教育を受けていない、未来のない、希望を持ってない子供達——世界ではテロや戦争で、そして貧困や疾病で、一方日本では昨年も、そして今年にはいっても子供が犠牲になる事件が後を絶ちません。同じ餓死でも、日本は虐待で子供を死においやっています。いじめで自殺の連鎖が起きています。人々の精神の荒廃を憂うばかりです。特に私は、社会のひずみのしわ寄せが子供達にゆく現状。未来を担うべき世界の子供達、青少年が犠牲になってゆく現実がくやしくてなりません。

世界の市民たるロータリアンが、地球村のリーダーとしてロータリアンが今こそ個々に品格を鍛錬し、人々に倫理、人間性、文化への認識、他人への奉仕を望む心の大切さと、国境を超えて、世代を超えて人と人の絆の大切さを、啓蒙する必要に迫られています。率先しよう。世界理解と平和を推進し、より良い環境をつくりだす使命にもえながら。

国際ロータリー第2650地区

ガバナー 平井義久

